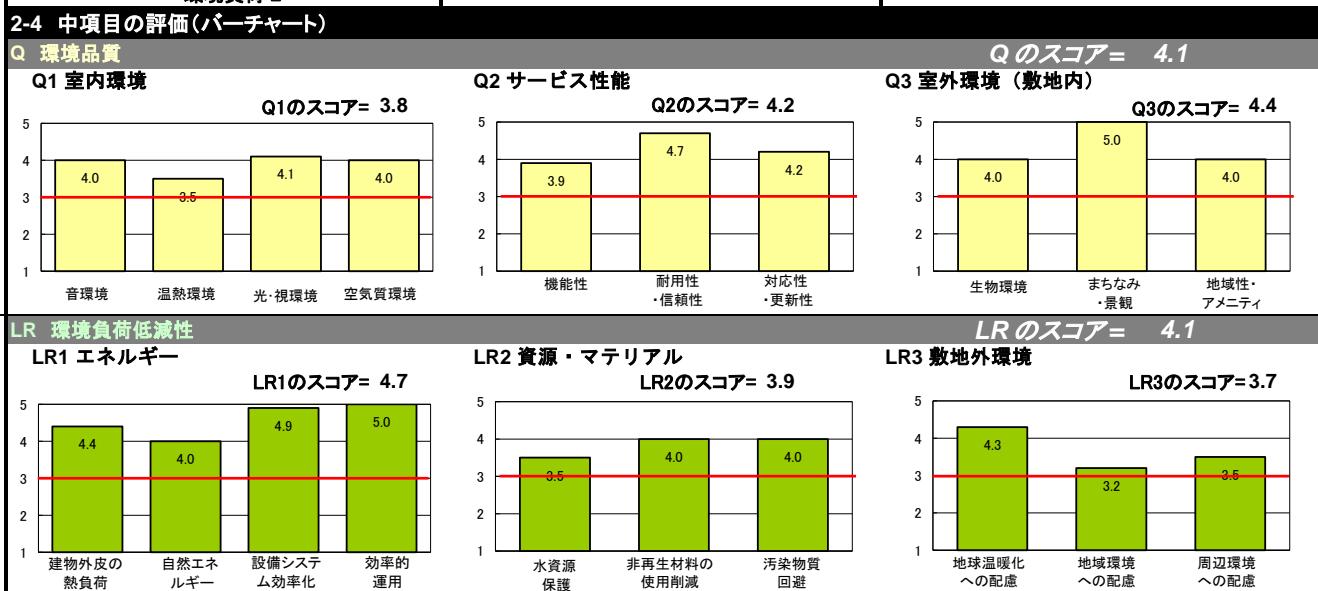
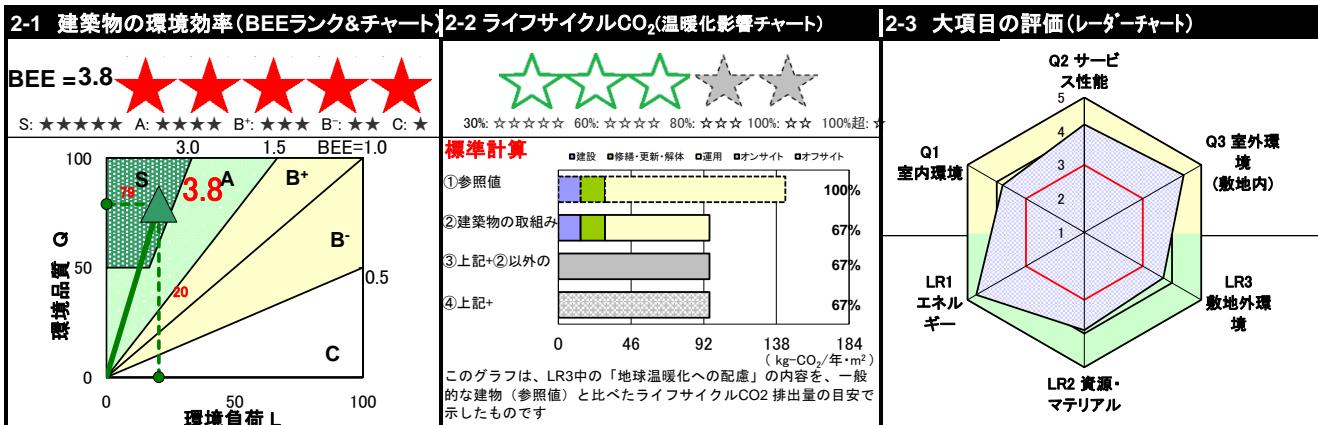




■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

■バージョン: CASBEE横浜2017年版v.1.7

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横浜シンフォステージ	階数	地上30F、地下1F
建設地	横浜市西区みなとみらい5丁目1番2号	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	8,700 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定)
建物用途	事務所、ホテル、工場等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 竣工	評価の実施日	2021年2月12日
敷地面積	20,621 m ²	作成者	株式会社大林組
建築面積	14,681 m ²	確認日	2021年2月12日
延床面積	182,938 m ²	確認者	株式会社大林組



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
横浜市西区に計画された複合施設である。低層部に商業施設、中層部に事務所、高層部にホテルを擁する。リサイクル材の採用や敷地内緑化等により環境負荷低減及び景観に配慮した計画としている。		-
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・ペリメータ各方面、インテリアの系統毎に冷暖房の切り替え可能な計画としている。ホテルは4管式の空調方式を採用している。 ・花粉除去も可能な除塩フィルターを導入。	・耐用年数の長い建材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	・自生種や食餌木植物の採用により、生物環境の保全と創出に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・垂直、水平ルーバー及びダブルスキンの組み合わせ、プライド自動制御により建物の熱負荷抑制している。 ・変風量・変流量制御等の各種インバータ制御を導入、LED照明の採用等設備システムの高効率化を図っている。	・再利用可能な部材を採用し、非再生性資源の使用量削減に配慮している。 ・節水型の器具を採用し、雨水・空調ドレンの再利用を行っている。 ・ガス消火設備にはN2を採用している。	・広告物照明は設置せず、周囲への漏れ光に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフケーブルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケーブルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 横浜シンフォステージ

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

5

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①垂直、水平ルーバー及びダブルスキンの組み合わせ、ブラインド自動制御により建物の熱負荷抑制している。

②オフィス部分はジャロジー窓や窓面スリットによる自然換気、中間期には外気冷房を導入している。

③変風量・変流量制御等の各種インバータ制御を導入、LED照明の採用等設備システムの高効率化を図っている。

④建物用途毎にBEMSによるエネルギー管理を行っている。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【快適・働きやすさ】

4

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑨オフィスはペリメータ各方面、インテリアの系統毎に冷暖房の切り替え可能とし、ホテルは4管式の空調方式を採用している。

⑩十分な照度、昼光率の確保⑪花粉除去も可能な除塩フィルターを導入。換気量は30m³/h人を確保している。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

⑫バリアフリー対応、リフレッシュスペース計画等、使いやすく快適な取組の採用

⑬アトリウムによる中間領域の形成

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防 災】

5

■耐用性・信頼性 (⑯耐震・免震 ⑰部品・部材の耐用年数向上 ⑱信頼性)

⑯制振構造により地震・強風時の揺れを抑制し、安全性を高めている。被災度判定システムにより迅速な状況把握が可能にしてい

⑰耐用年数の長い外装材・内装材を使用している。

⑱非常用発電機及びCGSIにより、建物機能上最低限必要な設備+オフィスやホテルの空調機、外調機に電源供給計画としている。

⑲3日分の受水槽(備蓄水)、緊急排水槽容量を確保している。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

5

■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境 ⑳まちなみ・景観 ㉑地域性への配慮)

⑲隣地や歩道には、個性のある広場配置し、緑でつなぎ、オンとオフの境界線が調和した心地の良い空間を創出している。

⑳内陸から海に向かって統率されたスカイラインを形成することによって、海や港を感じられる景観に寄与している。

㉑敷地内に地域住民が利用可能なEVの設置を行い、隣接する歩道などとのスムーズな通行空間の形成している。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギー・マネジメントシステム以外)

コジェネレーション・建物間のエネルギー融通・

蓄熱設備・

エネルギー・マネジメントシステム導入

BEMS

—



スコアシート 実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分 評価点	住居・宿泊部分 評価点	全体 重み係数
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>			
Q 建築物の環境品質				-	-	4.1
Q1 室内環境				0.39		3.8
1 音環境				4.0	0.15	2.8
1.1 駆音				4.0	0.40	4.0
1.2 遮音				4.2	0.40	2.6
1 開口部遮音性能				5.0	0.62	3.0
2 界壁遮音性能				3.0	0.38	3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	1.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0
1.3 吸音				4.0	0.20	1.0
2 温熱環境				3.5	0.35	3.4
2.1 室温制御				3.6	0.50	3.8
1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	3.0
2 外皮性能		快適・働きやすさ	健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	4.0	0.25	5.0
3 ゾーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	4.0	0.37	-
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	4.0	0.20	3.0
2.3 空調方式		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.30	3.0
3 光・視環境				4.1	0.25	3.3
3.1 昼光利用				2.8	0.31	4.2
1 昼光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	2.0	0.58	5.0
2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	-
3 昼光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	4.0	0.42	3.0
3.2 グレア対策				5.0	0.29	3.0
1 昼光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	5.0	1.00	3.0
3.3 照度		快適・働きやすさ	⑩光環境	4.0	0.15	3.0
3.4 照明制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	5.0	0.25	3.0
4 空気質環境				4.0	0.25	3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0
1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	1.00	4.0
4.2 換気				3.6	0.30	3.3
1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	0.34	4.0
2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.31	3.0
3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	0.34	3.0
4.3 運用管理				4.5	0.20	-
1 CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	0.48	-
2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	0.52	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-
1 機能性				3.9	0.40	3.8
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40	3.4
1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.31	3.0
2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.31	4.0
3 パリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.38	-
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30	4.5
1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.32	4.0
2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.32	-
3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.36	5.0
1.3 維持管理				4.0	0.30	-
1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-
2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-
2 耐用性・信頼性				4.7	0.30	-
2.1 耐震・免震				5.0	0.50	-
1 耐震性		防 災	⑯耐震・免震	5.0	0.80	-
2 免震・制振性能		防 災	⑯耐震・免震	5.0	0.20	-
2.2 部品・部材の耐用年数				4.2	0.30	-
1 車体材料の耐用年数		防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-
2.4 信頼性				5.0	0.20	-
1 空調・換気設備		防 災	⑰信頼性	5.0	0.20	-
2 給排水・衛生設備		防 災	⑰信頼性	5.0	0.20	-
3 電気設備		防 災	⑰信頼性	5.0	0.20	-
4 機械・配管支持方法		防 災	⑰信頼性	5.0	0.20	-
5 通信・情報設備		防 災	⑰信頼性	5.0	0.20	-
3 対応性・更新性				4.2	0.30	2.7
3.1 空間の中とり				4.5	0.29	2.4
1 階高の中とり				5.0	0.60	2.0
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40	3.0
3.2 荷重の中とり				4.0	0.29	3.0
3.3 設備の更新性				4.2	0.42	-
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-
2 給排水管の更新性				5.0	0.20	-
3 電気配線の更新性				5.0	0.10	-
4 通信配線の更新性				5.0	0.10	-
5 設備機器の更新性				5.0	0.20	-



スコアシート 実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	6 パックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.31	-	-	4.4
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑯生物環境の保全と創出	4.0	0.30	-	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑯まちなみ・景観への配慮	5.0	0.40	-	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑰地域性への配慮	5.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減			-	-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	-	4.7
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	4.4	0.20	-	-	-	4.4
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	4.0	0.10	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	4.9	0.50	-	-	-	4.9
4 効率的運用			5.0	0.20	-	-	-	5.0
集合住宅以外の評価			5.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	5.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	5.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	-	3.9
1 水資源保護			3.5	0.20	-	-	-	3.5
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	-	-
2 雜排水等利用システム導入の有無			4.0	0.30	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減			5.0	0.10	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	-	-
1 消火剤			4.0	0.33	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			4.0	0.33	-	-	-	-
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮			4.3	0.33	-	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			3.2	0.33	-	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			4.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制			5.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			4.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.5	0.33	-	-	-	3.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音			3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動			-	-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.7	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制			4.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			5.0	0.70	-	-	-	-
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-
上記以外の重点項目				-	-	-	-	-
<事務所用途>				-	-	-	-	-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	4.0	-	-	-	-
<住宅用途>				-	-	-	-	-
健康と安心				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質の対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-
2 適切な換気計画		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-
3 結露・カビ対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-	-